

中期目標の達成状況に関する評価結果

筑波技術大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	5
《本文》	7
《判定結果一覧表》	17

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

国立大学法人筑波技術大学（以下「本学」という。）は、聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関として、今日の知識基盤社会に対応するため、個々の学生の障害特性に配慮した教育を通じて、幅広い教養と専門的、応用的能力を持つ専門職業人を養成し、両障害者が社会的自立を果たし、自ら障害を持つリーダーとして社会貢献できる人材の育成を図るとともに、新しい教育方法の研究と実践を通して国内外の障害者教育及び職業自立の発展に資することを基本的な目標とする。

この基本的な目標を踏まえ、高等教育の内容に関わる各専門分野の研究の推進を図るとともに、最新の科学技術を利用して聴覚・視覚の障害を補償する教育方法やシステム等を開発し、情報授受のバリアのない教育環境の構築に努める。

また、聴覚・視覚障害学生を受け入れている他大学等に対する支援、聴覚・視覚特別支援学校等との高大連携、留学生支援を含めた海外の高等教育機関との障害者に係る教育研究に関する国際交流活動等を推進する。

さらに、東洋医学と西洋医学を統合した教育研究を推進するとともに、特色ある医療活動を通じて地域医療に貢献する。

本学は、これらの目標をより高いレベルで達成していくために、大学院の充実を図るとともに、理療科教員養成課程等の設置を視野に教育研究を充実する。

1 聴覚・視覚障害者のための学部及び大学院教育

本学は聴覚・視覚障害者のための高等教育機関として、産業技術学部と保健科学部の2学部、大学院修士課程技術科学研究科、障害者高等教育研究支援センターで構成されている。

産業技術学部（聴覚障害者を対象）は、産業情報学科と総合デザイン学科で構成され、「情報処理、ものづくり、生活環境創り」を通して専門職業人を養成している。

保健科学部（視覚障害者を対象）は、保健学科（鍼灸学専攻、理学療法学専攻）と情報システム学科で構成され、「鍼灸手技、理学療法、情報技術」を通して専門職業人を養成している。

大学院技術科学研究科は3専攻からなる修士課程である。産業技術学専攻（情報科学コース、システム工学コース、総合デザインコース）、保健科学専攻（鍼灸学コース、理学療法学コース、情報システム学コース）、情報アクセシビリティ専攻（障害者支援（聴覚障害コース）、障害者支援（視覚障害コース）、手話教育コース）から構成されている。

障害者高等教育研究支援センターは、教養教育、聴覚・視覚障害者に対する教育方法の開発、聴覚・視覚に障害のある学生が在学する他大学等への助言や支援などを行っており、技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻は、当センターを基盤に開設された。

2 聴覚・視覚障害に関する専門技術及び支援技術に関する研究

産業技術学部では、「聴覚障害者の能動的音聴取支援」「データ工学的アプローチによる情報保障」「聴覚障害学生のコミュニケーション支援」「障害児の入所施設の建築計画」など、産業技術を障害者教育、障害者支援、障害者福祉に応用した研究が特色である。

保健科学部では、「鍼・灸・あん摩・マッサージ療法における臨床的、生理学的研究」

「障害者のリハビリテーション」「視覚障害者のための情報アクセス」など、東洋医学を統合した保健科学的研究、視覚障害者に対する障害補償システム、情報保障・教育支援システムに関する研究を実施し、国際的に発信している。

障害者高等教育研究支援センターでは、「情報保障（文字通訳、手話通訳）の質的向上」「モバイル型遠隔情報保障システムの開発」「障害学生支援のグローバル連携体制構築」「障害者に対する学習資料保障」などの研究を実施し、障害のある学生の教育に関する支援技術等の開発に大いに貢献している。

3 聴覚・視覚障害に関する社会連携・国際連携及び地域貢献

障害者高等教育研究支援センターは、平成 22 年度から文部科学省により「障害者高等教育拠点」の認定を受けて、教育コンテンツの開発と提供、聴覚・視覚障害学生に対する支援技術の提供、パソコンノートテイクの養成、FD・SD 研修会など、全国の大学で学ぶ聴覚・視覚障害学生及び障害者教育に関わる教職員を対象に支援を行っている。

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、全国の大学で学ぶ聴覚障害学生の支援のために、本学を中心に 23 大学・機関の協力により運営している。毎年 200 件以上の相談に対応し、聴覚障害学生への支援コンテンツの提供、情報保障技術提供等を通じて、障害学生の学修支援、生活の質向上に寄与している。平成 25 年度には、それら社会的貢献が評価され、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の内閣総理大臣表彰を受賞した。

米国、中国、韓国など 16 の大学や教育機関と国際交流協定を締結し、海外の学生・研究者との交流を促進することにより、国際交流・グローバル人材育成を推進している。

保健科学部附属東西医学統合医療センターは、東洋医学（漢方・鍼灸）と西洋医学の治療を効果的に統合して提供できる診療・施術施設であり、医師による診療、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧治療、リハビリテーション外来等にて地域医療に貢献している。鍼灸師・あん摩マッサージ師を養成する唯一の高等教育機関として人材育成、臨床研究を行い、さらに理療科教員養成課程等の設置に向けた取組みを関係機関と調整中である。

[個性の伸長に向けた取組]

- ・学際的に新領域である「情報保障学」の教育・研究を行う技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻を平成 26 年 4 月に開設し、障害者支援の中核的な役割を担いうる高度専門職業人を育成している。

（関連する中期計画）計画 2－1－1－1，計画 1－2－1－1

- ・教育関係共同利用拠点（障害者高等教育拠点）として、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークを拡充させ、他大学に学ぶ聴覚障害学生の修学支援等を開催し、大学の目的に沿った社会貢献を実施している。

（関連する中期計画）計画 3－1－1－4

- ・本学の特色である少人数教育とアカデミック・アドバイザー制度を導入し、個々の学生の勉学状況を的確に把握し、学修の助言や生活全般に及ぶ相談・支援等、きめ細かな指導を行っている。

（関連する中期計画）計画 1－4－1－1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

本学は甚大な被害はなかったが、両キャンパスのほぼ全建物で敷地・階段・渡り廊下・ジョイント等に段差が発生し、段差復旧工事、内・外壁クラック補修を実施した。また、敷地内道路・駐車場・中庭・発光点字ブロック等に亀裂・段差が発生し、復旧工事を実施した。L型側溝及びマンホールの復旧、ボイラー煙道落下などの復旧も行った。

震災復興予算にて、講堂天井耐震改修、体育館天井照明落下防止工事、プール棟照明落下防止工事を実施した。

東北地区の大学で学ぶ聴覚障害学生に対して PEPNet・Japan 連携大学・機関の協力のもと、本学開発の「モバイル型遠隔情報保障支援システム」を用いて遠隔支援を提供した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、筑波技術大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	3	
② 大学院課程の教育内容及び成果等に関する目標	良好		1		
③ 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
④ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	1	
（Ⅱ） 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		1		
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
（Ⅲ） その他の目標	良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	非常に優れている	1			
② 国際化に関する目標	良好		1		
③ 保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 平成 26 年度に聴覚・視覚障害者の社会自立や参加に貢献する専門的かつ系統的な知識、情報及び技術を提供し、障害者支援の中核的役割を担う高度専門職業人を養成する情報アクセシビリティ専攻を技術科学研究科に設置している。（中期計画 1-2-1-1）
- 平成 25 年度から各教員が 3 名から 5 名の学生を担当し学修・生活等の指導に当たるアカデミック・アドバイザー制度や、学生の学修や生活状況、授業の項目別目標及びキャリアデザイン等から構成される修学ポートフォリオ制度を導入している。アカデミック・アドバイザーは、毎週学生と面談し、1 年次クラスについては、毎月学生指導会議を行い教員間で情報の共有を行っている。これらにより、個々の学生の学力や障害の程度を的確に把握し、きめ細かい教育指導、支援を行う体制を整えている。（中期計画 1-4-1-1）
- 携帯電話を通じて、話者の音声を遠隔地にいる要約筆記者に送信し、作成された字幕データを携帯電話で受信できるモバイル型遠隔情報保障システムの開発、聴覚障害児の認知能力に関する研究、視覚障害者のスポーツ活動とメンタルヘルスに関する研究及び視覚障害者対応の TOEIC・IP テストの開発に関する研究等、聴覚・視覚障害者に対する教育方法や教育支援システムについての研究開発を推進し、学内外で学ぶ聴覚・視覚障害学生に対する支援を行っている。（中期計画 2-1-1-1）
- 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）を継続して運営しており、年間 300 件から 400 件の各種コンサルティングや相談支援のほか、38 点の支援関連コンテンツを作成している。また、50 回にわたる各種研修会を実施し、参加者は延べ 3,675 名となっている。これらの取組により、平成 25 年度にバリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰において内閣総理大臣表彰を受賞している。（中期計画 3-1-1-4）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 筑波技術大学は甚大な被害はなかったが、両キャンパスのほぼ全建物で敷地・階段・渡り廊下・ジョイント等に段差が発生し、段差復旧工事、内・外壁クラック補修を実施した。また、敷地内道路・駐車場・中庭・発光点字ブロック等に亀裂・段差が発生し、復旧工事を実施した。L 型側溝及びマンホールの復旧、ボイラー煙道落下などの復旧も行った。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○産業界との連携による学生の進路の確保

中期目標(小項目)「社会の多様な教育への需要に応えることにより、より高度で質の高い就労を支援する。」について、障害学生の雇用及び職場適応に関する情報を提供することを目的に企業向け大学説明会等を開催するなど、産業界との連携を図り、学生の進路の確保に努めている。また、学生に対し、企業の人事採用経験者による、エントリーシートの書き方、面接方法等、実践的なアドバイスを行い、就職活動への不安を低減し適切な自己アピールを行えるよう指導するなどキャリア支援教育を行っている。これらの取組により、産業技術学部の就職率は第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)に93.9%から100%の間で推移している。(中期計画1-1-4-1)

(特色ある点)

○TOEIC 受験の推進

中期目標（小項目）「聴覚・視覚障害を補償した教育を通じて、生涯にわたって学修するための基本的素養を身につけさせるとともに、技術の高度化、専門化などに基づく社会的ニーズに柔軟に対応できる専門的知識・技術とその応用能力を育成し、各専門分野において聴覚・視覚障害者のリーダーとして社会に参画・貢献できる専門職業人を養成する。」について、平成 26 年度から、国際化に対応するコミュニケーション能力向上に向けて、英語のネイティブスピーカーによる英会話サロンや TOEIC 講座を聴覚障害系、視覚障害系に分けて実施し、視覚障害者用 TOEIC 受験教材を作成するなど、聴覚障害学生、視覚障害学生のそれぞれの特性に配慮した方法で TOEIC 受験を推進している。（中期計画 1-1-3-1）

(2) 大学院課程の教育内容及び成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「大学院課程の教育内容及び成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○情報アクセシビリティ専攻の設置

中期目標（小項目）「社会のニーズに応える専門的知識・技術を高め、自ら研究・応用が行える能力を育成し、リーダーとしての役割が果たせ、社会に対応できる高度専門技術者・医療人及び研究者の養成を目指す。」について、平成 26 年度に聴覚・視覚障害者の社会自立や参加に貢献する専門的かつ系統的な知識、情報及び技術を提供し、障害者支援の中核的役割を担う高度専門職業人を養成する情報アクセシビリティ専攻を技術科学研究科に設置している。

(中期計画 1-2-1-1)

○新たな技術に対応できる高度専門技術者、研究者の育成

中期目標（小項目）「社会のニーズに応える専門的知識・技術を高め、自ら研究・応用が行える能力を育成し、リーダーとしての役割が果たせ、社会に対応できる高度専門技術者・医療人及び研究者の養成を目指す。」について、産業技術学専攻では、障害者支援、情報ネットワーク及び人間とシステムの間の相互のインタラクション等、各領域の工学・科学を融合した研究を推進し、新たな技術に対応できる高度専門技術者、研究者を育成している。これにより、平成 25 年度

に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）が主催する HCG シンポジウムで、大学院生 6 名が優秀インタラクティブセッション発表賞を受賞している。また、保健科学専攻では、西洋医学と東洋医学を統合した講義・演習、進歩する医療に対応する基礎医学分野の講義、最新の視覚障害補償機器に関する講義等を設定し、より高度で専門的な医療技術者・研究者を養成しており、平成 27 年度にモンゴルからの留学生 1 名がモンゴルでの視覚障害者のマッサージ普及活動における功績を認められ、モンゴル国大統領賞北斗七星賞を受賞している。（中期計画 1-2-1-3）

（３）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○学生の特性に配慮した教育支援の推進

中期目標（小項目）「教職員を対象とした組織的な研修を推進する。また、研修や授業評価の結果を教育の質の向上及び改善の取組に効果的に結びつける方策を実施する。」について、新任教職員が聴覚・視覚障害学生とのコミュニケーション方法を学ぶために実施している手話・点字研修の名称を、平成 26 年度から聴覚障害者支援研修、視覚障害者支援研修に変更している。また、平成 27 年度に聴覚障害と聴覚障害学生の実態についての講義や、聴覚障害学生を対象とした授業についてのディスカッション等を追加するなど、より広く支援方法を身に付けることで、学生の特性に配慮した教育支援を行っている。（中期計画 1-3-2-2）

○他大学への教育コンテンツ、情報保障技術の提供

中期目標（小項目）「聴覚・視覚障害者の教育に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。」について、障害者高等教育研究支援センターでは、平成 22 年度から他大学で学ぶ聴覚・視覚障害学生、教職員を対象に、ろう者学ウェブサイト等の教育コンテンツ、情報保障技術を提供している。また、筑波障害学生支援研究会や障害学生支援交流会等、他大学の教職員を対象としたファカルティ・ディベロップメント（FD）及びスタッフ・ディベロップメント（SD）に関する研修会を開催するなど、教育方法・教育資源の共有、研修等の活動を行っている。（中期計画 1-3-3-1）

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○アカデミック・アドバイザー制度や修学ポートフォリオ制度の導入

中期目標(小項目)「学修・生活・進路等に関する相談・助言の体制の充実を図るとともに、学生の生活全般に対する教員の指導力を高め、社会の変化に対応できる体制を整えることにより、障害にかかわるニーズに配慮しながら、学生への支援を個別的、効果的に実施する。」について、平成25年度から各教員が3名から5名の学生を担当し学修・生活等の指導に当たるアカデミック・アドバイザー制度や、学生の学修や生活状況、授業の項目別目標及びキャリアデザイン等から構成される修学ポートフォリオ制度を導入している。アカデミック・アドバイザーは、毎週学生と面談し、1年次クラスについては、毎月学生指導会議を行い教員間で情報の共有を行っている。これらにより、個々の学生の学力や障害の程度を的確に把握し、きめ細かい教育指導、支援を行う体制を整えている。

(中期計画 1-4-1-1)

○就職支援の推進

中期目標(小項目)「学修・生活・進路等に関する相談・助言の体制の充実を図るとともに、学生の生活全般に対する教員の指導力を高め、社会の変化に対応できる体制を整えることにより、障害にかかわるニーズに配慮しながら、学生への支援を個別的、効果的に実施する。」について、学生の障害の種類に合わせた就職ガイダンスやセミナーを定期的実施するほか、企業を対象とした大学説明会等を実施するとともに、採用の可能性調査を行い、新たな就職先の開拓に努めている。これらの取組により、第2期中期目標期間の就職率は産業技術学部は93.9%から100%の間で、保健科学部は80.0%から100%の間で推移しており、障害者の社会での活躍につなげている。(中期計画 1-4-1-2)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○聴覚・視覚障害者に対する教育方法や教育支援システムの研究開発の推進

中期目標(小項目)「本学の特色である障害者の高等教育、支援技術に関する研究を国際的水準で展開し、その研究成果を本学学生や留学生の教育に活用するとともに、他の教育機関等に積極的に公開するなどにより、障害者の福祉向上や高齢者の生活支援のために活用する。また、学部や大学院等の教育の内容に関わる産業技術・保健科学の専門分野の研究を推進する。」について、携帯電話を通じて、話者の音声を遠隔地にいる要約筆記者に送信し、作成された字幕データを携帯電話で受信できるモバイル型遠隔情報保障システムの開発、聴覚障害児の認知能力に関する研究、視覚障害者のスポーツ活動とメンタルヘルスに関する研究及び視覚障害者対応の TOEIC・IP テストの開発に関する研究等、聴覚・視覚障害者に対する教育方法や教育支援システムについての研究開発を推進し、学内外で学ぶ聴覚・視覚障害学生に対する支援を行っている。(中期計画 2-1-1-1)

○研究成果の社会への還元への推進

中期目標(小項目)「本学の特色である障害者の高等教育、支援技術に関する研究を国際的水準で展開し、その研究成果を本学学生や留学生の教育に活用するとともに、他の教育機関等に積極的に公開するなどにより、障害者の福祉向上や高齢者の生活支援のために活用する。また、学部や大学院等の教育の内容に関わ

る産業技術・保健科学の専門分野の研究を推進する。」について、遠隔情報保障システムの研究成果を基に、茨城県議会放送に実施協力を行い、手話通訳付きの県議会中継映像をインターネットで公開している。また、視覚障害者のための支援機器である網膜投影型ヘッドマウントディスプレイの評価実験に協力し、視覚障害者のための支援機器の製品化に貢献するなど、研究成果の還元を進めている。震災を契機に、平成 23 年度から東北地区で学ぶ障害学生の支援のため、全国の連携大学・機関の協力により、モバイル型遠隔情報保障システムを用いた情報保障を提供している。（中期計画 2-1-1-2）

（２）研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○障害者高等教育拠点の推進

中期目標（小項目）「聴覚・視覚障害者教育の研究に資するため、教育方法の改善及び機器の開発、さらに、手話・点字を含めた情報保障などの研究を推進するとともに、障害者教育の研究に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。」について、平成 22 年度から平成 26 年度に障害者高等教育拠点「聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築」を研究テーマとして、ろう者学、英語教育コンテンツ、スポーツ教育コンテンツの開発を行っている。また、視覚あるいは聴覚障害を持つ学生を受け入れている高等教育機関の教職員を対象に、筑波障害学生支援研究会等の情報保障、指導法及び障害補償支援機器に関する FD・SD 研修会を実施している。

（中期計画 2-2-2-1）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「非常に優れている」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域における障害者の支援人材の育成

中期目標(小項目)「他大学や特別支援学校等、障害者関係組織及び地域社会と連携し、聴覚・視覚障害者に係る教育支援を行うとともに、障害補償に関する機器や学修資料等の研究開発を促進し、その成果を公表することにより教育支援に役立てる。」について、つくば市が市職員向けに実施しているつくば市ユニバーサルデザイン(UD)研修会の講師を教職員が担当し、つくば市職員に対し地域の聴覚・視覚障害者への対応方法等についての研修を行っている。また、平成23年度から東京都教育庁と連携し、特別支援学校(聴覚障害)へのICTを活用した教育に関する取組を進め、平成22年度から平成25年度に茨城県聴覚障害者協会主催の茨城県手話通訳養成講座に対して会場の提供や講師派遣等の支援を行うなど、地域における障害者を支援する人材の育成を行っている。

(中期計画 3-1-1-1)

○ワンセグを活用した情報保障画面の配信

中期目標(小項目)「他大学や特別支援学校等、障害者関係組織及び地域社会と連携し、聴覚・視覚障害者に係る教育支援を行うとともに、障害補償に関する機器や学修資料等の研究開発を促進し、その成果を公表することにより教育支援に役立てる。」について、企業と連携し、情報保障をワンセグとして放送するシ

システムであるエリアワンセグによる聴覚障害者向けの情報保障サービスが、総務省のホワイトスペース特区に平成 23 年度に選定され、講義画面と字幕画面とを 2 画面に分けて放送するなど、ワンセグを活用した情報保障画面を配信している。

(中期計画 3-1-1-2)

○日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの充実

中期目標（小項目）「他大学や特別支援学校等、障害者関係組織及び地域社会と連携し、聴覚・視覚障害者に係る教育支援を行うとともに、障害補償に関する機器や学修資料等の研究開発を促進し、その成果を公表することにより教育支援に役立てる。」について、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）を継続して運営しており、年間 300 件から 400 件の各種コンサルティングや相談支援のほか、38 点の支援関連コンテンツを作成している。また、50 回にわたる各種研修会を実施し、参加者は延べ 3,675 名となっている。これらの取組により、平成 25 年度にバリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰において内閣総理大臣表彰を受賞している。（中期計画 3-1-1-4）

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○海外大学との教職員及び学生の交流の促進

中期目標（小項目）「聴覚・視覚障害者の教育とその研究に関して、諸外国の教育機関や障害者関連組織との連携及び海外の学生・研究者との交流を促進することにより、国際交流・国際貢献を推進し、その中核としての役割を果たす。」について、短期留学事業として、欧州、米国、韓国、ロシア、中国等の 11 校の協定校に、第 2 期中期目標期間に学生延べ 83 名、教職員延べ 96 名をそれぞれ 10 日程度の日程で派遣している。平成 23 年度から海外協定校からの国際教育短期受入プログラムを実施し、手話・点字を含めた日本語習得の支援等、受入体制を整備することにより、平成 23 年度から平成 27 年度にナザレ大学（韓国）や長春大学（中国）等から計 17 名の学生を受け入れ、成果報告会を実施している。このように海外機関との交流や留学生受入を行い、学生の専門知識の深化や国際感覚やコミュニケーション能力の涵養を図っている。（中期計画 3-2-1-1）

（特色ある点）

○教育研究活動を通じた国際貢献の推進

中期目標（小項目）「聴覚・視覚障害者の教育とその研究に関して、諸外国の教育機関や障害者関連組織との連携及び海外の学生・研究者との交流を促進することにより、国際交流・国際貢献を推進し、その中核としての役割を果たす。」について、アジアにおける連携の強化や支援活動としてアジア医療按摩指導者ネットワーク（AMIN）を構築し、モンゴル国モンゴル盲人連合協会の職業訓練センター開設に際し、教育課程等の助言・指導、教材の提供、人材育成等の支援を行うことにより、教員2名がモンゴル社会福祉省優秀賞を受賞している。また、ミャンマーでマッサージ師養成のための教育施設の設立と講習会開催の支援を行い、30名以上のマッサージ師の指導者を育成するなど、アジアにおける連携、支援活動に取り組んでいる。（中期計画 3-2-1-2）

（3）保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
（Ⅰ） 教育に関する目標			おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標			おおむね良好	
アドミッション・ポリシーに基づいて、学生の受入れを推進する。			良好	
1-1-1-1	○アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜を実現するための具体的方策 アドミッション・ポリシーに基づいた、学生の受入れを推進するため、適切かつ広範な広報活動を実施し、入学者募集基準や教育内容の周知を図る。		良好	
本学の特性を踏まえ、体系的な授業内容を提供、授業内容や特性に合致した授業形態、指導法等を行うとともに、成績評価基準を明確にし、学生の質保証に努める。			おおむね良好	
1-1-2-1	○教育理念等に応じた教育課程を編成するための具体的方策 教養教育、専門基礎教育、専門教育を関連させ、一貫性のある教育課程を編成する。		おおむね良好	
1-1-2-2	○適切な成績評価等の実施に関する具体的方策 すべての授業について明確な成績評価基準を策定する。また、適切な質の評価と保証を図るため、成績評価グレードポイント（GPA）制の導入を検討し、学生に公表し、努力を促す。		おおむね良好	
聴覚・視覚障害を補償した教育を通じて、生涯にわたって学修するための基本的素養を身につけさせるとともに、技術の高度化、専門化などに基づく社会的ニーズに柔軟に対応できる専門的知識・技術とその応用能力を育成し、各専門分野において聴覚・視覚障害者のリーダーとして社会に参画・貢献できる専門職業人を養成する。			おおむね良好	
1-1-3-1	○教養教育の成果に関する具体的方策 幅広く深い教養及び総合的な判断力、生涯にわたって学修し、社会人として活躍しうる基本的素養を身につけるために必要な総合教養教育科目、主題別教養科目に加え、必要により専門基礎教養科目を開設する。また、障害関係科目により障害を理解させ、その克服を促すとともに、障害補償演習や言語・情報関係教育及び国際交流を通して、情報化、国際化の進展に対応できるコミュニケーション・スキルを高める。		おおむね良好	特色ある点
1-1-3-2	○専門教育の成果に関する具体的方策 各専門分野の技術の高度化、専門化に柔軟に対応できる専門的知識・技術とその応用能力を育成するとともに、社会に積極的に参画・貢献できる専門職業人を養成するため、専門領域の特性に基づき、1年次からの専門教育の導入や、個々の学生の適性や目標に応じた学修プログラムに対応できるように、幾つかの専攻やコース、履修モデルを作成する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	社会の多様な教育への需要に応えることにより、より高度で質の高い就労を支援する。		おおむね良好	
1-1-4-1	○卒業後の進路等に関する具体的方策 産業技術学部は情報、システム、デザイン関係、保健科学部では保健、情報関係の専門職業人・技術者としての就職を確保するため、インターンシップなどを通して職業指導の充実を図るとともに、産業界や医療界との連携に努める。また、国家試験など資格試験の合格率を高い水準に維持する。なお、学修意欲の高い学生には大学院等への進学も奨励する。		良好	優れた点
1-1-4-2	○教職課程、理療科教員養成課程の設置に関する具体的方策 社会的要請の強い教職課程、理療科教員養成課程を設置するため、教育体制、具体的履修プログラムの検討を進め、それぞれ今期間中早期の設置を目指す。理療科教員養成課程の準備に当たっては、最新の専門知識や臨床指導能力等を備えた人材を養成できるように整備する。		おおむね良好	
1-1-4-3	○9月入学、編入学を実現するための具体的方策 9月入学（秋季入学）等についての履修プログラム、実施体制等の検討を行う。編入学については、特に短期大学卒業生の状況を調査し、必要により定員化を実施する。		おおむね良好	
② 大学院課程の教育内容及び成果等に関する目標			良好	
社会のニーズに応える専門的知識・技術を高め、自ら研究・応用が行える能力を育成し、リーダーとしての役割が果たせ、社会に対応できる高度専門技術者・医療人及び研究者の養成を目指す。			良好	
1-2-1-1	○大学院課程を充実するための具体的方策 障害者高等教育研究支援センター等の教員が担当する教育及び開発研究に基づき、基礎となる学部のない独立型の設置形態となる情報アクセシビリティ専攻（仮称）については、平成25年度までの設置を目指す。		良好	優れた点
1-2-1-2	○授業形態、学習指導法等に関する具体的方策 障害に配慮したきめ細かい指導ができるように、少人数クラス、個別対応に必要な実施体制を整える。また、他大学との単位互換、留学の奨励、インターンシップ及び学外実習などにより、本学以外の教育資源の活用を図るよう計画する。		おおむね良好	
1-2-1-3	○専門教育の成果に関する具体的方策 社会のニーズに応える専門的知識・技術を高め、自ら研究・応用が行える能力を育成し、リーダーとしての役割が果たせ、社会に対応できる高度専門技術者・医療人及び研究者の養成を目指す。		良好	優れた点
1-2-1-4	○修了後の進路等に関する具体的方策 高度専門職業人としての教育レベルと就職を確保するため、産業界との連携によりインターンシップを取り入れるなど、実践的な教育や企業内研修の実施を準備する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
③ 教育の実施体制等に関する目標			おおむね良好	
	教育目的・目標の実現を図るために、授業内容や方法の改善に必要な教育体制及び教育支援体制を整える。		おおむね良好	
	1-3-1-1	○適切な教職員の配置等に関する具体的方策 教養教育系と専門教育系の領域を超えた科目の担当を実施するなど、大学の基本的な目標を達成するための効果的な教員の配置、役割分担を検討する。また、助教、TAなどの積極的活用により少人数授業の中でよりきめ細かく個別対応を実施する。	おおむね良好	
	1-3-1-2	○教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策 聴覚・視覚の障害を補償する設備については、eラーニング等の導入を進めるなどにより充実を図るとともに、自由にアクセスできる情報システムやインターネットを十分に活用できる学修環境を整備する。また、留学生、社会人入学者及び編入学者等に対して、必要な個別対応ができるような学修環境を整備し、学修の質の向上を図る。 附属図書館においては、平成20年度に作成した「マスタープラン」に沿って、聴覚及び視覚障害学生のための学修及び教育支援、研究支援、情報発信等について、グループ学習室や休息スペースの設置などの具体的計画（情報保障を視野に入れた環境整備、研究図書館としての機能整備など）の検討を進め、実現する。	おおむね良好	
	教職員を対象とした組織的な研修を推進する。また、研修や授業評価の結果を教育の質の向上及び改善の取組に効果的に結びつける方策を実施する。		おおむね良好	
	1-3-2-1	○教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策 教員相互の授業参観や学生による授業評価等を引き続き実施するとともに、その結果を活用し、教育指導等を改善するため、評価の内容を教員と学生にフィードバックし、授業の改善や就職・進路指導の改善に役立てる。フィードバックしたことによる改善状況については、教員の個人評価においてチェックするとともに、教育の成果や効果を組織的に検証し、その評価結果を予算配分、給与面に活用する。 また、教育成果の評価法に関する研究プロジェクトを立ち上げ、教員の個人評価法を改善する。	おおむね良好	
	1-3-2-2	○教材、学習指導法等に関する研究開発及びFDに関する具体的方策 障害の特性に応じた教育方法の改善・開発を更に推進するとともに、新任教員に対して障害理解と障害者に対する指導法に関する研修を実施する。 また、教員を対象とした教材作成や学習指導法等に関するFD、教職員を対象とした手話、点字、情報保障等のスキルに関する研修会を定期的に実施する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	聴覚・視覚障害者の教育に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。		良好	
1-3-3-1	○学部等の教育実施体制等に関する具体的方策 今期間中早期の設置を目指す教職課程及び理療科教員養成課程の設置に向けた整備を進める。 学生のニーズや社会の変化に対応できるよう、カリキュラムの改訂のみならず、学科の再編、入学定員の見直しを行い、教育研究体制を整備する。 大学院においては、高度専門技術者・医療人及び研究者を育成するという目標をより高いレベルで達成できるように、教員の研究指導力の向上や研究設備などの充実を図る。 障害者高等教育研究支援センターを全国共同利用型の教育関係施設として環境整備を進め、人的・物的資源の共同利用を推進する。		良好	優れた点
④ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
学修・生活・進路等に関する相談・助言の体制の充実を図るとともに、学生の生活全般に対する教員の指導力を高め、社会の変化に対応できる体制を整えることにより、障害にかかわるニーズに配慮しながら、学生への支援を個別的、効果的に実施する。			良好	
1-4-1-1	○学生相談・助言・支援の組織的対応に関する具体的方策 個々の学生の障害の状態や能力を的確に把握するとともに、各授業担当教員が授業時間外においても学生からの意見や要望に、より丁寧な対応ができるようにオフィスアワーの見直しを行い、より良い学修・生活支援を進める。 さらに、チューター制やアドバイザー制により、学生一人ひとりをきめ細かく支援する。		非常に優れている	優れた点
1-4-1-2	○就職支援等に関する具体的方策 新たな就職先の開拓、進路・就職に関する講演会等の充実、学生のコミュニケーション特性に応じた面接指導を行う。また、障害に起因する社会生活上の困難や職場適応に関する相談対応等の就職後のフォローアップを推進する。 さらに、職域開拓や職能開発に係る調査研究を障害者の就職支援を行う機関等と連携して進める体制を整備する。		良好	優れた点
1-4-1-3	○経済的支援に関する具体的方策 経済的困窮者や成績優秀者に対する入学料・授業料猶予、免除制度がより有効となるように点検を行い、必要な改善を図る。 また、種々の奨学金等に関する情報収集を行い、学生に提供する。		おおむね良好	
留学生及び社会人入学者に対して個別対応ができる学修支援環境の実現を図り、学修の質の向上を推進する。			おおむね良好	
1-4-2-1	○社会人・留学生に対する具体的方策 社会人や留学生の受入れを積極的に進めるとともに、受入れや支援制度の整備・改善を図り、その学修・生活を支援する活動を充実させる。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
(Ⅱ) 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			良好	
本学の特色である障害者の高等教育、支援技術に関する研究を国際的水準で展開し、その研究成果を本学学生や留学生の教育に活用するとともに、他の教育機関等に積極的に公開するなどにより、障害者の福祉向上や高齢者の生活支援のために活用する。 また、学部や大学院等の教育の内容に関わる産業技術・保健科学の専門分野の研究を推進する。			良好	
2-1-1-1	○目指すべき研究の方向性と重点的に取り組む領域 学部や大学院等の教育の充実と高度化を図るため、研究資金の配分方法の改善などにより、産業技術及び保健科学に係る専門分野の研究を推進する。さらに、西洋医学と漢方、鍼灸を含む東洋医学を統合した国際的なレベルの研究を推進する。 聴覚・視覚障害者を対象とする高等教育機関として、聴覚・視覚障害者に対する教育方法、教育機器、教材、障害補償システム、情報保障システム及び教育支援システムについて研究開発を推進するとともに、他大学との共同研究及び他大学に学ぶ聴覚・視覚障害学生に対する支援にも積極的に取り組む。 今後、留学生の増加が見込まれる中で、自らの選択で学ぶことができる高等教育の整備（ユニバーサル・アクセスの実現）のため、日本語及びそれ以外の言語による手話・点字を含めた情報保障などの研究を行う。		良好	優れた点
2-1-1-2	○成果の社会への還元に関する具体的方策 聴覚・視覚障害児・者のための教育及び支援に関する研究成果については、各種支援事業及び機関リポジトリ（NTUTリポジトリ）事業により、大学や特別支援学校等の機関に広く還元する。 また、障害者や高齢者の生活支援、福祉に結びつく研究成果については、企業等の関係機関と連携して積極的に実用化を目指す。		良好	優れた点
2-1-1-3	○研究の水準・成果の検証に関する具体的方策 各教員の研究については、教員の個人評価の研究領域の項目で検証する。 研究チームの研究水準の目標を設定するに当たっては、他大学や海外の研究業績を調査・検討し、必要な見直しを行う。		おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
本学の特色を踏まえた重点研究プロジェクトを設定し、人材、資金、施設などを重点配分する。また、知的財産の創出、取得、管理及び活用について、必要な取組を行う。			おおむね良好	
2-2-1-1	○適切な研究者等の配置並びに研究資金の配分、設備等の活用・整備に関する具体的方策 大学としての重点研究プロジェクトを設定し、研究員を委嘱するなど、学部や学科等を超えた研究ユニットを編成して研究を推進するとともに、研究資金を重点的に配分する。 また、研究室、実習室等の利用状況をチェックし、研究スペースの配分の適正化を図り、重点研究プロジェクトのための研究施設を確保する。教室の利用状況を調査し、効率化を図るため、教室を共用スペースに転用する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
	計画番号	中期計画			
	2-2-1-2	○知的財産の創出、取得、管理及び活用に関する具体的方策 知的財産に関する啓発活動を行うとともに、教員の取得した特許、開発したシステム等については、産業界と協力して実用化を目指す。特に障害者支援機器等に関して特許取得と実用化を目指す。	おおむね良好		
	聴覚・視覚障害者教育の研究に資するため、教育方法の改善及び機器の開発、さらに、手話・点字を含めた情報保障などの研究を推進するとともに、障害者教育の研究に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。		良好		
	2-2-2-1	○研究実施体制等に関する具体的方策 総合的な聴覚・視覚情報保障の研究開発及び普及のため、聴覚障害系と視覚障害系が独自性を保ちつつ、必要に応じて一体的な取組のできる体制と環境を整備するとともに、障害者高等教育研究支援センターを全国共同利用型の研究施設としての環境整備を進めるなどにより、研究実施体制を充実する。	良好		優れた点
	教員の個人評価を行い、結果を研究費の配分や人事制度に反映させる。		おおむね良好		
	2-2-3-1	○研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策 教員の個人評価を実施し、その評価結果をもとにして研究の内容・方針・体制の見直しを行うとともに、その評価結果を研究費配分、給与面に活用する。	おおむね良好		
(Ⅲ) その他の目標				良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標				非常に優れている	
他大学や特別支援学校等、障害者関係組織及び地域社会と連携し、聴覚・視覚障害者に係る教育支援を行うとともに、障害補償に関する機器や学修資料等の研究開発を促進し、その成果を公表することにより教育支援に役立てる。				非常に優れている	
	3-1-1-1	○地域社会との連携・協力、社会サービス等に係る具体的方策 聴覚・視覚障害者に係る教育機器、障害補償システム及び学修資料等の研究開発を学外の関係組織や団体と連携・協力して行う。その成果を公開するとともに、情報アクセスを支援する人材（点訳者・音訳者及び手話通訳者等）の育成と技能の向上を図るために公開講座や研修会等を実施する。 また、機関リポジトリの整備と研究成果の蓄積等により、地域住民、聴覚・視覚障害関係者に対する図書や障害関係資料の利用促進を図る。蓄積された研究成果を「つくばサイエンスリポジトリ」に提供することにより、筑波研究学園都市の特性に特化したコンテンツの蓄積・公開事業に貢献する。	良好		優れた点
	3-1-1-2	○産学官連携の推進に関する具体的方策 関係機関と連携して産学交流会やシンポジウムを開催し、新技術の開発、特許取得、製品化及び障害者支援技術の普及を積極的に進める。	良好		優れた点

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
	3-1-1-3	○教育機関等との連携・支援に関する具体的方策 教材や教育支援システムの開発等を通して、聴覚・視覚障害者の教育方法の改善に資するとともに、ニーズに応じた情報提供、教育相談などを進める。 また、開発した支援機器や学修資料を提供するなどの支援を行い、聴覚・視覚障害者の社会参加に貢献するとともに、両障害者支援に関する技術や情報を全国の特別支援学校等の教育機関に広く提供し、支援の拡大・普及により連携を深める。		おおむね良好	
	3-1-1-4	○他大学等との連携・支援に関する具体的方策 聴覚・視覚障害学生支援にかかわる全国規模の大学間ネットワークを充実させ、他大学等で学ぶ聴覚・視覚障害学生並びに学会等に参加・発表する聴覚・視覚障害者への支援を行い、両障害者の社会進出に貢献する。		非常に優れている	優れた点
② 国際化に関する目標				良好	
聴覚・視覚障害者の教育とその研究に関して、諸外国の教育機関や障害者関連組織との連携及び海外の学生・研究者との交流を促進することにより、国際交流・国際貢献を推進し、その中核としての役割を果たす。				良好	
	3-2-1-1	○留学生交流その他諸外国の大学等との教育研究上の交流に関する具体的方策 国際交流協定締結大学等を中心に教職員及び学生の交流等により、障害者教育に係る大学等との国際交流を推進する。また、聴覚・視覚障害留学生の受入れを促進するとともに、手話、点字を含めた日本語等の習得支援並びに学修支援体制の整備の一環として、留学生のプレ教育のための全国共同利用型の施設の設置を目指す。		良好	優れた点
	3-2-1-2	○教育研究活動に関連した国際貢献に関する具体的方策 国際的にも聴覚・視覚障害者教育支援活動における中核的役割を果たすために、国際交流協定締結大学等との間で国際会議・研究会を開催するとともに、機関リポジトリやインターネット等を活用し、障害者教育支援の範囲を海外に拡大する。 また、アジア域内及び国内の関係団体と連携・協力の下に、アジアにおける視覚障害者の職業自立のために、マッサージ教育及びマッサージ業の普及を図るなどの国際貢献を行うことにより、アジア地域の障害者高等教育機関、関係団体との連携の強化、支援活動を充実する。		良好	特色ある点
③ 保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標				おおむね良好	
東西医学統合医療機関として特徴ある診療・施術及び教育研究を通して、地域医療の向上に貢献するとともに、効率的な経営を行う。				おおむね良好	
	3-3-1-1	○良質な医療人養成の具体的方策 学生個々の能力や障害の程度に応じたより質の高い臨床実習の在り方を検討し、患者の立場に立った施術を行える医療人を養成する。鍼灸マッサージ師の卒業教育についても、その在り方の検討を行うとともに、理学療法診療教育の場として整備を検討する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
		3-3-1-2	○医療サービスの向上や質の高い医療の提供に関する具体的方策 東西医学統合医療による治療に対する患者ニーズに対応するため、医療システムの効率化を図るとともに、東西医学に精通した医師・鍼灸師など医療者の配置、医療者間の効率的な連携、リハビリテーションを主体とした理学療法診療の整備等の改善点を検討し、必要かつ可能なことから実施する。また、地域の需要に応え、健康等の啓発を図る。	おおむね 良好	
		3-3-1-3	○東西医学を統合した研究と診療、施術に関する具体的方策 東西医学統合医療機関として特徴的な診療を行うことにより地域医療に貢献するとともに、東西両医学の視点に立った診断治療施術に関する研究を推進する。	おおむね 良好	